

ルール改正から見るラグビーの変化について

About change of the rugby seen from rule revision

1K08A150-3 土屋鷹一郎

主査 倉石平 先生 副査 石井昌幸 先生

【研究動機】ラグビーというスポーツでは毎年のようにルールに関する通達が IRB(International Rugby Board 以下 IRB)から発表され、その通達はそれぞれの国のラグビー協会が各々の国へ向けて通知されている。その内容に関しても、大きくルールを変更するものであったり、ルールの解釈の確認であったりとその規模は大小様々である。そしてそれに対応するようにラグビーの戦術・戦略も変化してきた。ここまではルールに関する動きの多いスポーツはラグビー以外にあまり見かけない。なぜルール改正が行われるのか。また戦術や戦略、ラグビーの考え方まで一から作り直す必要性が生まれるであろうルール改正をなぜ頻繁に行うのか。疑問を持った著者は今回の卒業論文のテーマとしてルールについて取り上げようと思った。

【研究目的】研究動機のところでも述べたが、ラグビーというスポーツはルールに関する動きが非常に多い。具体的な数字を言うと、ここ最近の5年間で実に30近くもの項目がIRBを通して発表されている。当然ルールが変われば、試合の内容も変化してくる。今回著者はまずどのようなルール改正が行われてきたかを調査し、そしてその影響による試合内容の変化を考えることによって、ルール改正の意図を明確にし、今後ラグビーがどのように戦術戦略等で変遷または発展していくかを考えることを目的としている。

【ルール改正について】まず始めに著者はこれまでにどのようなルール改正が行われてきたかを調べることにした。調査方法はIRBと日本ラグビーフットボール協会の二つの機関のホームページを参照し、年度毎にどのような改正が行われてきたかを調査した。調査を進めていくなかで、IRBからの通達の内容やルール改正の目的がいくつかのパターンに分けられるのではないかと著者は考えた。通達の内容については、1. 単純にルールが改訂されるパターン 2. IRBと各国のラグビー協会との質疑応答のパターン 3. ルールの解釈の確認をしたのちに、明確化し今後の試合で反映されるパターンの三つに、ルール改正の目的については、1. 選手の安全を守るためという目的 2. 公平な試合運びを行うた

めという目的 3. 改正によって試合内容の変化を促し、ラグビーの人気向上を目指すという目的の三つのパターンにそれぞれ分けることが出来るのではないかと著者は考えた。【ELV】現代のラグビーにおける大きな転換点として「ELV(Experimental Law Variations)」の導入が挙げられる。「ELV」とは日本語では「試験の実施ルール」と呼ばれ、2008年5月にIRBから発表された大規模なルール改正のことである。このELV導入を境にラグビーの戦術・戦略は大きく変わり、試合内容も大きく変化をみせた。ではどのように変化したのかをELVが導入される前後のシーズンの試合を対象にして調査する。今回は大学選手権を調査対象とし、ELV導入によって大きな変化が見られると考えられるキック、カウンターアタック、ラインアウト、ラインアウトモール、スクラム、ラック、ペナルティーゴール、総得点の8項目についてデータを収集した。この8項目の総数、平均値を取り、各シーズンを比較することで、ELV導入による変化をみた。その結果、ラインアウトモール、ラック、カウンターアタック、ペナルティーゴールにおいてELV導入前後で大きな変化がみられ、ルール改正が試合内容に影響していることが分かった。

【結論】今回ルール改正における調査や分析を行った結果、ルールの改正における傾向、またラグビーの変化について二つのことが分かった。一つ目はアタックをしているチームが有利となるようにルール・ラグビーが変化していることである。アタック側が有利になることで得点機会を増やし、見ていて楽しい試合を演出することで、ラグビーの人気向上につなげたいということが考えられる。二つ目はインプレーの時間を長くするようにルール・ラグビーが変化していることである。インプレーの時間が長いということはその分だけグラウンド内でボールや選手が動いている時間が長いということなので、見ていて楽しい試合となり、ラグビーの人気向上につなげたいということが考えられる。以上の二つがルール改正から見るラグビーの大きな変化であり、ルール改正の根底にはラグビーの人気向上が存在しているということをも今回の結論とする。